

世界終末時計が90秒前に 未曾有の危機の時代 一致団結した行動が必要 ウクライナ戦争と核威嚇 一秒一秒が大切

2023年2月24日 山崎久隆(たんぼぼ舎共同代表)

「世界終末時計」とは

マンハッタン計画で最初の核兵器開発に参加したアルバート・アインシュタインとシカゴ大学の科学者たちによって1945年に設立された『原子力科学者会報』(Bulletin of the Atomic Scientists・ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスト)が、2年後に「終末時計(Doomsday Clock・ドゥームズデイ・クロック)」として作成し、黙示録(深夜零時)のイメージと、核爆発へのカウントダウンという現代の表現手法を使用し、人類と地球に対する脅威を世界に伝

達することを目的として考案されました。

この最新版が1月24日に公表され、史上最も短い「90秒」が提示されました。

冷戦が終結した後は、17分前までに戻され、緊張緩和と核軍縮による戦争のない21世紀が期待されました。しかし2001年の同時多発テロ後、米国による対テロ戦争が始まり、アフガニスタン攻撃などで7分前にまで進みました。その後はほぼ一貫して午前零時に向かって進み続けているのが現実です。

最新の声明文「A time of unprecedented danger」「It is 90 seconds to midnight」の抄訳を紹介します。

(訳は山崎久隆)

原文のURLは <https://thebulletin.org/about-us/science-and-security-board/> です。

世界終末時計は史上最悪の90秒前を示す

2023年、原子力科学者会報の科学安全保障委員会は、主な理由として増大するウクライナ戦争の危険性を根拠として、終末時計の針をこれまでよりも前進させた。

「時計」は現在、真夜中まで90秒の位置にあり、これまでで午前零時「世界的な大惨事」に最も接近することとなった。2020年には100秒前とされていた。

ウクライナ戦争は双方が勝利できると確信して、すでに2年目の恐怖の年に入っている。ウクライナの主権と、第二次世界大戦後も概ね維持されてきた欧州の広範な安全保障体制が現在危機に瀕している。

また、ロシアの対ウクライナ戦争は、国家がどのように対話をするのかに関して深い疑問を投げかけ、世界の様々な危険に対処し一種の成功体験

を支えてきた、国際的な行動規範を大きく損なうものとなった。

最悪なのは、ロシアが核兵器の使用さえもちらつかせて威嚇し始めていることであり、偶発的、意図的、あるいは計算違いによる武力衝突の激化は恐る



1月24日、米ワシントンで開かれた終末時計の発表会
(米誌提供・共同)

べきリスクであることを世界に知らしめている。この対立が誰の手にも負えなくなる可能性もまた依然として高い。

最近のロシアの行動は、数十年にわたるロシア政府の約束にも違反している。

ロシアは1994年に米英とともにハンガリーのブダペストで「ウクライナの独立と主権、既存の国境を尊重する」「ウクライナの領土保全や政治的独立に対する武力による威嚇や行使は控える」との厳粛な宣言に署名した。(訳注：ブダペスト覚書)

核軍縮条約も危機に瀕する

ロシアによるウクライナ戦争が続く中、ロシアと米国の間に残る最後の核軍縮条約である新START（新戦略兵器削減条約）が危機に瀕している。

交渉を再開し、さらなる核戦兵器削減の根拠を見つけない限り、条約は2026年2月に失効する。失効すれば相互査察はなくなり、相互不信が深まり、核軍拡競争に拍車がかかる。そして核兵器の応酬による戦争の可能性が高まる。

米国、ロシア、中国は現在、本格的な核兵器の近代化計画を進めており、危険な「第3次核時代」の新たな競争の舞台を整えている。南アジアにおける軍拡競争と北東アジアにおけるミサイル軍拡競争に関する長年の懸念は、対処すべき悲惨な状況を完成させた。

国連のアントニオ・グテーレス事務総長が8月に警告したように、世界は「冷戦の最盛期以来、見られなかった核の危険な時代」に突入した。

これらの保証は、ウクライナが自国内の核兵器を放棄し、明確に核不拡散条約に署名するとの理解の下になされた。

またロシアは、チェルノブイリ原発とザポリージャ原発の敷地にまで侵攻し、国際条約の議定書（ジュネーブ条約第一・第二議定書）に違反して放射性物質を広範囲に放出する危険を冒した。これまでのところ、国際原子力機関による、原発の安全確保に関する提案はロシアにより拒絶されている。

核兵器の影の下で、将来の侵略を阻止する公正な平和を築くための明確な道はない。

しかし、少なくとも米国は、この戦争が引き起こした危険な核兵器リスクの増大を低減させるためにロシアと、道義に基づいた協力への門戸を開かなければならない。

リスク削減の1つの要素として、誤算の可能性を減らすために、米軍とロシアとのハイレベルの継続的な接触が考えられる。

米国政府、NATO同盟国、ウクライナは多くの対話チャンネルを持っている。それらは全て調査されるべきである。

真剣な和平交渉への道を見つけることは、エスカレーションのリスクを減らすのに大いに役立つに違いない。

未曾有の世界的な危険にさらされている今、一致団結した行動が必要であり、一秒一秒が大切である。

